

## 2025年 図書館の現在地

総合文化学科 専任講師 玉岡 兼治

毎年私は司書課程の入門科目である図書館概論の授業の初回時に、学生のみなさんに「図書館はここ30年間に大きく変化をしました」ということをお話ししています。

今日はこの『みすゞ』を手に取っていただいている皆さんに、ここ30年間の日本の図書館の変化について説明をし、この間に大きく変化をした図書館の現在について知っていただきたいと思います。

まず日本の図書館の運営方針の方向性が大きく変化をしました。

2000年ごろまでは、貸出冊数が多い図書館が、良い評価の図書館でした。しかし、現在ではそうした「貸出冊数優先の図書館」から「課題解決型図書館」へと方向性が変化をしてきています。図書館にはさまざまな疑問や調べたい事柄を持って来館する利用者の方がおいでになります。司書は利用者の方と対話や質問を繰り返しながら、この方が本当に知りたいことは何か、そしてその疑問解決には図書館所蔵のどの資料を参照すればよいか、ということを瞬時に頭の中で算段していかなければなりません。現代に司書に求められる適性の第一は、コミュニケーション能力が必要不可欠、ということです。この転換は本学のように司書課程を持っている教育機関の司書育成の方向性も大きく変えることになりました。

次に図書館の運営主体が変わりました。以前の公共図書館は〇〇市立図書館であれば、その図書館を設置した市が直営で図書館を運営していました。しかし、今は民間企業等による指定管理者制度が導入される図書館が増えています。日本図書館協会の調査によりますと、2024年現在で指定管理者制度を導入した市町村立図書館は全国で700館を超えていました。図書館運営はその自治体と委託契約をした業者ですし、勤務している司書も委託された業者からの派遣職員、という事例が多くなっています。このことは大学図書館ではさらに顕著です。文部科学省が毎年全国の大学図書館を対象にして調査を行う「学術情報基盤実態調査」によると、2024年度の調査結果では、全国の国公私立の大学図書館のカウンター職員の93%が委託、もしくは非常勤職員になっています。

また図書館の資料も変化しました。以前から電子図書館構想というものがあり、図書館に行くことなく自分の持っている情報機器端末の画面でその図書館の本を読むことが出来たら便利だろう、という論議がありました。しかし著作権処理の関係でなかなか実現しませんでした。それが2019年から生じた新型コロナウイルス蔓延の結果、来館しないで図書館の資料が閲覧できる電子図書館構想が一気に進み、構想は急速に現実化されることになりました。政府から新型コロナウイルス対応の助成金で、各自治体に電子図書館を開設できることになりました。長野県では各市町村単位ではなく、県立図書館が中心となって「デジとしょ信州」という電子図書館を運営しています。

このように、司書、施設運営、資料の種類とも大きく変貌したのが2025年の図書館の現在なのです。こうした中において本学の司書課程では、図書館の変化に対応するために講義形式に加え、実践活動を多く取り入れた授業を展開しています。

例えば、児童と図書館の授業では、絵本の読み聞かせ実習、自分のお薦め図書について、5分でその図書を紹介するというブックトークの会を企画・運営したり、グループで児童室のイベント企画を考えてもらい、発表したりする機会を作っています。こうした活動の中から、さまざまな人と協力しあうことを学び、また自分たちの意見発表の機会を作り、そこから「人に伝える」「伝わる発表とはどのようなものか」を学修する機会を設定しているところです。

図書館は現在このように大きな変化の時期にありますが、本学の司書課程もそうした変化する図書館の方向性を見据え、司書育成をすすめているところです。変わりゆく図書館と本学の司書育成教育についてみなさまのご理解を切に願います。

## 絵本の可能性

幼児教育学科1年 竹内 里咲

皆さんは、子どものころに絵本を読んだことがありますか？好きだった絵本がある人もいると思います。

私には、特別な絵本が一冊だけあります。それは『おたんじょうびおめでとう』という一冊です。この絵本は私のために作られたものであり、世界で一つしかない絵本なのです。主人公はもちろん私。優しい動物たちと一緒に誕生日を祝う内容になっています。今でもお守りとして大事に持っています。

絵本は読む子どもによって広がる世界が一つ一つ違います。パンの絵本を見て「おいしそう」と思う子もいれば、「作ってみたい」と実際に作ってみようとする子もいます。もしかしたら、パン屋さんになりたいと願う子もいるかもしれません。絵本は子どもたちに夢を与えてくれる素敵なものとなっています。

そして心身共に成長した今、改めて昔読んだ絵本を読んでみると感じ方が一変します。前は気付かなかつたことに気付き、その絵本が持つメッセージに心を打たれることも。ワクワク、ポカポカ、キラキラ、絵本には様々な可能性が詰まっています。少しの時間でも絵本の世界に触れて親しんでみるのをぜひおすすめします！

## 心に残っている絵本

幼児教育学科2年 山口 凜

みなさんは好きだった絵本や思い出に残っている本はありますか？

私は、小学生の時に読んだ『ええところ』という絵本が心に残っています。この絵本は、自分に自信が持てない小学1年生のあいちゃんが、自分の“ええところ”を見つけていくお話です。自分を周りと比べて落ち込むあいちゃんに、友達のともちゃんが「手があったかい」という素敵な“ええところ”を見つけてくれたことをきっかけに、少しずつ自分を大切に思えるようになる様子が描かれています。私も自分に自信が持てないというところが共感する部分であったため、『ええところ』という絵本に出会ったことで、長所は目に見えやすいことだけではなく「手があったかい」「人を思いやる」などといった目立たないことも大事な長所であるということに気づくことができ、小さなことの価値も大切にしていこうと思いました。

出会う絵本によって、自分の中で何かが変わるきっかけにもなります。気になった絵本を手に取ってみるのもいいかもしれません。

## 私の特別な一冊

総合文化学科1年 宮崎 嶺

私は昔から本を読むことが苦手でした。小説を開いても文字ばかりが目に入り、なかなか物語の内容に集中することができず、最後まで読み切る前に諦めてしまうことが多かったです。そんな私にとって大きな転機となったのが、綾辻行人さんの『Another』との出会いでした。最初はホラー小説という言葉に惹かれて、怖いもの見たさの気持ちで手に取っただけでした。しかし読み進める内に、不気味な雰囲気や次々と起こる出来事に強く引き込まれて、ページをめくる手が止まらなくなっていました。最後まで読み切ったとき、それまで本を読めなかつた自分にとって大きな自信となりました。「自分で長い小説を読み通すことができるんだ」と思えたことで、次は別の作品も読んでみたいという気持ちが芽生え、少しずつ読書が楽しくなっていきました。

今では、読書は自分の考えを広げてくれる大切な時間となっています。『Another』は、そんな私に読書の大切さ楽しさを教えてくれた特別な一冊です。

## ありか

総合文化学科2年 田辺 結衣

「子どもができたら、親の恩が痛いほどわかる」自分の母親からそう言われ信じてきた私は、親になって母親の言っていた意味が分からなくなつた。この世で一番大切であり、かけがえのない存在である娘のひかりと、決して裕福とは言えないが毎日幸せな日々を送っている。ただどこか孤独であり、頭の中で引っかかっているものがある。私は愛されていなかったのではないかということ。

この本を読んで私は、人との繋がりを大切にしていきたいと思った。血のつながりにとらわれず、思いやりと支えあいによって築かれていく関係の尊さを教えてくれ、自分を大切にしてくれる人たちは自分も同様に大切にしていきたいと改めて思った。温かく、確かな愛が感じられる。自分のしてきたことに自信を無くしている人、不安で仕方がない人など、誰しも不安を抱え迷いながら生きているけど、自分だけじゃない、ひとりぼっちじゃない大丈夫だよと心に寄り添ってくれる物語である。

## わたしの読書の中から

### 「幸福論」

アラン著 白井健三郎訳 集英社 1993年

日々の心の持ちようについて、静かに考えさせられる一冊です。迷ったときや、少し立ち止まりたいと思ったときに、前を向くヒントをそっと与えてくれる本です。

## これは読んでおこう—教員・研究者の立場から

### 「音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション」

R. マリー・シェーファー、今田匡彦著 春秋社 1996年

日常生活の中には、さまざまな音があふれています。この本は、普段は意識しない音に耳を澄ませたり、日常の音を少し違った角度から捉えたりするきっかけを与えてくれる一冊です。

## わたしの読書の中から

### 「文章研究序説」

時枝誠記著 山田書院 1960年

私たちが日々接している「文章」について、深く考察されています。文章読解の方法を模索していた私に、鮮明に道を示してくれた一冊です。いつでもお貸しますので、お気軽にお声掛けくださいね。

## これは読んでおこう—教員・研究者の立場から

### 「心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方 改訂版」

浦上昌則、脇田貴文著 東京図書 2020年

調査系論文を読み解くポイントを系統的に学習でき、論文の理解を助けてくれます。研究がさらに面白くなりますので、もしよければぜひ。

### 「新・教育の社会学—常識の問い合わせ、見直し方」

苅谷剛彦、濱名陽子、木村涼子、酒井朗著 有斐閣 2023年

「当たり前」に疑問を向けることを出発点とする社会学。私たちにとって身近な「教育」について、社会学を活かして探究してみませんか。



## 2025年 本学教員の新刊著作

(今年発行の単独著書・共著書・分担執筆書)  
著者の五十音順

大橋 敦夫 先生

### 「須坂のことば (須坂市方言集成)」

私家版 2025年11月 (共著書)

長田 真紀 先生

### 「コメニウスーその生涯と思想ー」

東信堂 2025年5月 (共訳書)

関 裕子 先生

### 「演習 子育て支援：実践から深める支援のまなざしと専門性」

教育情報出版 2025年9月 (共著書)

千葉 直紀 先生

### 「保育問題研究シリーズ 子どもの身体づくり・運動

～赤ちゃんから幼児までの保育実践を読み解く～」

新読書社 2025年6月 (分担執筆書)

山田 精一 先生

### 「Winning COM-PASS 資料読解 日本史 近現代編 (2026年版)」

東京法令出版 2025年2月 (分担執筆書)

# 図書館ガイド

## 1 図書館1階の学習支援センターについてご紹介

図書館内1階にある、学習支援センターが令和7年6月1日より新しく生まれ変わりました！これまで先生方が交代で勉強面のサポートをする場として開放していましたが、今年度6月より、新任の日野陽平先生が主に学習支援センターに着任し、勉強についての困りごとや、個人的なお悩みごとのほか、面接の練習や就職に対してのさまざまな相談ができる場となりました。さらに、PowerPoint、Word、Excelなど、パソコンの使い方も丁寧にご指導いただけるので、学生たちからも大人気の場所となっています。

日野先生が着任されてからの学習支援センターは、ほぼ毎日学生たちでにぎやかです！後期からは日程の変更により日野先生が不在の日もありますが、自主学習のスペースとしても自由に利用できます。勉強だけではなく、いろんなことを親身に相談できる場所となっておりますので、よりパワーアップした学習支援センターに、ぜひお気軽に足を運んでみてくださいね！

## 2 「図書館プロジェクト」始動！

今年度から「図書館プロジェクト」がスタートしました！主に司書課程を履修している1年生が中心となり、「図書館を知つてもう」ことを目標に、アイデアを出し合いながら活動しています。今年度は、オープンキャンパスで来館した高校生向けに、本学について楽しく学べる○×ゲームや、くじを引いて指定された本を探し出す“宝探しゲーム”を実施！学海祭では、自分で絵を描いて作るオリジナルブックカバーブリキや、ボードゲーム体験を行いました。



今後はブックハンティングなども計画し、学生目線で考える図書館づくりを進めていく予定です。楽しみながら学びを深め、学生ならではの新鮮なアイデアで、より身近で過ごしやすい図書館を目指します！

## 3 令和7年度図書館講座「どうしていますか？図書館の学習支援」開催！

2025年11月1日 学海祭同日開催

総合文化学科司書課程の玉岡兼治先生を講師に、図書館講座を開催しました。図書館での学習支援や利用講座の重要性が高まる中、図書館現場で感じるさまざまな課題について、実践的なアドバイスを交えながらお話をいただきました。

参加者のほとんどが司書の方で、高校・大学・公共図書館など、いろいろな立場から、それぞれの現場での課題やそれに対する意見、改善策が提出され、とても有意義な交流の場となりました。今後も、図書館に関するさまざまなテーマで講座を開催していく予定です。次回もぜひお気軽にご参加ください！



## | 編 | 集 | 後 | 記 |

現在、学生と教職員が協働し「新たな図書館づくり」に取り組んでいます。従来のあり方をなぞるのではなく、自分たちの手で理想の図書館を形にするため、意見を交わしながら模索を重ねています。

今年度は図書館に関わる教職員の体制も新しくなりました。この機会に、大学附属図書館としての使命を踏まえつつ、学びの多様性を支える場としての可能性を広げたいと考えています。

これからの図書館がどのように変わっていくのか、どうぞご期待ください。

附属図書館長 吉澤 俊

みすず

上田短期大学附属図書館報 第52号 2025.12発行

編集：上田短期大学図書館・紀要委員会 発行：上田短期大学附属図書館  
〒386-1214 長野県上田市下之郷乙620 TEL・FAX：0268-38-6019 E-mail：lib@ueda.ac.jp

